

家庭菜園相談室

今月の
テーマ

防虫ネットを活用して年中栽培が可能！ ～小松菜～



小松菜は、汁物やおひたし、炒め物に欠かせない野菜です。主に関東で生産が盛んですが、にしみの管内でも生産が盛んで、その出荷量は岐阜県産小松菜の約9割を占めています。小松菜は、東京都発祥の野菜とされていますが、尾張や岐阜で栽培される「もち菜」など、地方には小松菜と似たような野菜があり、その土地で色々な名前がついています。暑さにも寒さにも強く、1年中栽培できるので、時期を少しずつずらしてまいいくと良いでしょう。

図1 作型目安

	品種	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小松菜	楽天	●								●	
	菜々美		★								★★
	味彩			■	■	■	■	■	■	■	■

● 播種 ■ 不織布→寒冷紗 ★ 間引き・追肥・中耕・除草 ■ 収穫

栽培のポイント

- 苗の小さいうちは不織布をベタ掛けて、苗が大きになったら寒冷紗のトンネル掛けに切り替えます。
- シルバーや銀線入りのマルチシートを利用すると、アブラムシ除けの効果があります。
- 化成肥料（窒素）が効き過ぎると、調理して食べた際えぐみが出ることがあります。

作ってみたい品種

- 楽天：耐暑・耐寒・耐病性が強い品種。食味が良いので市場でも人気の品種です。
- 菜々美：耐暑性があり、株張りもよく多収が期待できる品種です。
- 味彩：葉は肉厚でやわらかく、食味を重視した品種です。

畑の準備

種まきの2週間前に苦土石灰100g/m²を施し、深さ30cm位までよく耕します。
1週間前には化成肥料（畑作名人N:P:K=13:13:13）100g/m²を施し、よく耕します。
畝幅70～80cm、高さ5cm程に畝を立てます。

種まき

畝に条間15～20cmのまきすじを付け、種をすじまきします。穴あきマルチを敷いた場合は、1カ所に数粒ずつまきます。
種をまいた後は軽く土を押さえ、防虫と土の乾燥を防ぐため、不織布をベタ掛けてから水をやります。
苗の小さいうちは、不織布をベタ掛けて、苗が成長したらアオムシやアブラムシを防ぐため、寒冷紗をトンネル掛けにします。

管理

発芽が揃ったら、混んでいるところを間引き、苗の間隔が1～2cmになるようにします。
本葉2～3枚の頃に、2回目の間引きをします。間引き菜は食べられます。
本葉4～5枚の頃に、株間が5～6cm程度になるように3回目の間引きをします。

追肥

2回目の間引きが終わった頃から、15～20日に1回の割合で500倍に薄めた液体肥料、または化成肥料（野菜の達人N:P:K=15:14:10）30g/m²を施します。以降、葉色が薄くなったら追肥します。

収穫

小松菜の草丈が15～20cmほどになったものから、順次収穫します。大株になり過ぎると硬くなり葉にアクが出るため、草丈30cm位までには収穫しましょう。
冬は寒さにあたると甘みが増し、おいしくなります。また、春先に蕾がついて伸びてきた茎（トウ立ち菜）も食べられます。

病害虫防除

連作すると土壌伝染病などが発生することがあるので、1年間はアブラナ科野菜の作付けを休むようにしましょう。
コナガ、アブラムシなどは、寒冷紗のトンネル掛けなどで防げますが、キスジノミハムシは寒冷紗の目を通り抜けてしまうので注意します。また、畑の周囲に、麦類やソルガムなどのバンカープランツをまいておくことでアブラムシの発生を抑えることができます。

その他、家庭菜園に関する相談は、JAのTACまでご連絡ください。